上埜さんは、内山手すき和紙体験の家「かみすき屋」で和紙を制作している。20 代から和紙に憧れを抱き、徳島県の阿波和紙の工房で働いていた。その後、江戸時代からの歴史がある内山和紙の体験工房が担い手を探していると知人に教えられて、木島平への移住を決意した。

現在は、地元の子供たちや観光に来られた方を対象に紙漉き体験を指導しながら、和紙の原料となる楮を育て、手すき和紙の制作、商品の受注販売をしている。

また、2019 年 10 月には「手すき和紙ちょこっと弟子入りの日」と題したイベントを開催した。このプログラムは、手すき和紙の体験を通じて子どもの自主性・創造性を養い、やがて、奥信濃の文化を世界に紹介できる地域人になってくれることをめざすものだ。

和紙を楽しむ場から地域に貢献したいと話す上埜さん。長野県を代表する伝統工芸品を守り続ける移住者の物語が、そこにはある。